

“命脈つきた制度は廃止できる”

裁判員制度廃止5.20全国集会in日比谷

5月20日夜、東京・日比谷野音で、裁判員制度はいらない!大運動主催の「5.20を裁判員制度廃止記念日に!」の集会・デモが820名で行われました。呼びかけ人の今井亮一さん(交通ジャーナリスト)、織田信夫さん(仙台弁護士会)をはじめ、各地で闘っている人たちが壇上にあがり、にぎやかに、次々と報告を行いました。

福岡からは裁判員候補通知が来たがそれを手に裁判所を追いつめた闘い、茨城からは呼び出し書類を手に拒否する街宣などがイキイキと報告されまし

た。呼びかけ人の高山俊吉弁護士は集会アピールで言いました。「3月25日に最高裁は、被災地でも3月28日から裁判員裁判を再開すると言った。

30万人が避難所で生活し、3万人がどこにいるのかわからない時だ。仙台高裁は裁判員裁判の予定はないと言った。これはレジスタンスだ。5月2日に最高裁は被災地でないところから裁判員を選んで行くと行った。ここは被災地、ここは被災地ではないと最高裁が区分するのか。3月25日のデタラメか



ら5月2日のデタラメに変わっただけだ」
「最高裁のアンケートでは5年前に65%だった『裁判員にはなりたくない』が、今は84%になっている。裁判員制度は命脈がついた。やめさせる力が私たちにはある」と。集会後、東電前で東電糾弾のシュプレヒコールをやり、注目の中、銀座デモを行いました。



Letter

弁護士が17名参加 裁判員制度は廃止に!

愛知連絡会 石田

5月14日(土)名古屋市で、裁判員制度はいらない!東海連絡会主催で、裁判員制度の現場からの報告とそれを受けてのパネルディスカッションをやりました。愛知・岐阜・三重の弁護士17名と市民23名が集まりました。

前半は、2名の弁護士から裁判員裁判の現場報告。公判前整理手続きのなかで、裁判官は証拠の現物がなくても弁護側がどう主張するのが判ってしまい、一番予断を持っているのは裁判官だとか、裁判員の選任では、欠席しないで出てくる人を第一に選んでいて、公平な審理ができるかなんか考えていないなど、マスコミ報道では知ることのできない不当な実態が生々しく報

告されました。後半は、5名の弁護士によるパネルディスカッションで、裁判員制度の問題点が浮き上がりました。

今回の集会は反対派によるいつもの主張だけでなく、講師をお願いした弁護士の中には中間派的な意見の方もおられましたが、一様に刑事裁判が破壊されている現状が報告されました。やはり、この制度は廃止するしかありません。この集会をキッカケに私たちの運動も広がりをもったものにしてゆきたいと思います。また、初めての参加者の中から、運動に積極的に参加したいという市民が現れました!

みんなで団結して、裁判員制度を廃止に追い込んでゆきましょう。

